

**USER'S
MANUAL**

PLANEX SMART SERVER

PLASMA

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

PLANEX SMART SERVER

PLASMA

本製品を安全にお使いいただくために

⚠ 警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



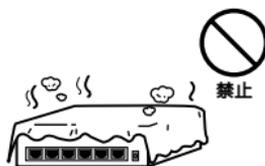
正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用すると誤動作や火災につながるおそれがあります。



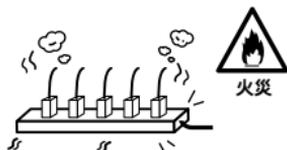
通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



電源コードをつけて移動しないで！

本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



液体・異物は入れないで！

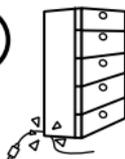
製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

- コードの上に物を載せない
- 熱源の側にコードを置かない
- コードをかじる癖のあるペットは隔離する
(かじった部分からショートし発火する危険があります)



設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・直射日光のあたる場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所



おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。

△注意

- ・データの保存、及びサーバとして運用中に電源を切らないで下さい。データの消失の恐れがあります。
- ・濡れた手で電源コードのプラグを抜き差ししないで下さい。感電する可能性があります。
- ・ハードディスクのデータは万が一に備え、必ず、Windows経由でデータを定期的に保存して下さい。

このマニュアルの構成

本マニュアルは以下のような構成になっています。

必ずお読みください

.....

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

ご使用方法

.....

第2章 ハードウェア設定

本製品の設置場所、設置方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 PLASMAの起動と終了

PLASMAへのログイン、シャットダウンについて説明します。

第4章 簡易設定

本製品の簡易設定方法、専用線接続方法について説明します。

第5章 メンテナンス

本製品のバックアップ、サービスについて説明します。

第6章 その他

本製品の注意事項、保証規定、修理交換、仕様について説明します。必ずお読みください。

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

第1章	はじめに	
	1.概要	7
	2.特長	8
	3.梱包内容の確認	9
	4.各部の名称	9
第2章	ハードウェアの設定	
	1.設置場所	11
	2.設置方法	11
第3章	PLASMAの起動と終了	
	1.PLASMAへのログイン	13
	2.PLASMAへのシャットダウン	15
第4章	簡易設定	
	1.クイックセットアップ	37
	2.専用線接続 (OCN/ODN)	41
第5章	メンテナンス	
	1.バックアップ	51
	2.ログの確認	52
	3.その他のサービス	53
	4.リカバリ機能	54
第6章	その他	
	1.Cybozu Office3 試用品	59
	2.注意事項	59
	3.保証規定	60
	4.修理/交換	61
	5.仕様	61

はじめに

1. 概要

ウェブ、メール、ファイル共有 (SAMBA、NATATALK)、DNS、DHCP、IPマスカレード、ファイアウォール、FTP、PPP、ユーザー登録管理、ステータス確認、ログ参照等サーバ機能を満載しています。

万が一のクラッシュに備えて、Windowsからのバックアップ/リストアが可能です。

設定ソフト「PLASMA」で設定した内容は、簡単にバックアップ/リストアが可能です。また、日付単位で保存できますので管理が容易です。

PLASMAの機能はすべて、Webブラウザ経由から簡単に設定できるユーティリティソフト「PlanexSmartManager」がバンドルされています。これにより、サーバ管理者の煩わしい作業を軽減出来ます。

2. 特長

ハードウェア

1. 本体サイズが、290(W)×225(D)×53(H)とコンパクトです。またスタンドが添付されてるので縦置きも可能で設置場所に困りません。
2. 消費電力が低い為、連続運用に向いてます。

ソフトウェア

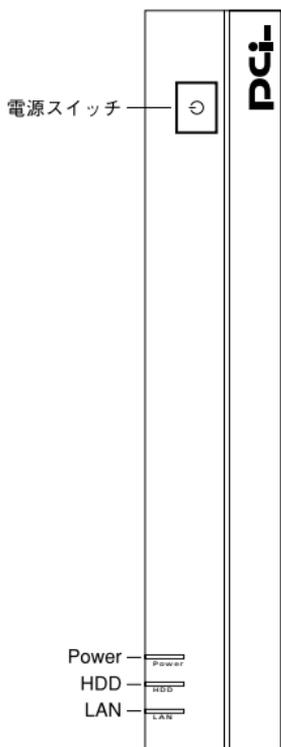
1. RedHat 6.0を必要最小限でコンパクトにまとめてますので、OSの動作に負荷が軽減されます。
2. HDDは、システム領域 / (ルート)、ユーザー領域 (home)、ログ領域 (var) に分割しユーザーのアクセスする領域をシステム領域に干渉しないように設計されてます。
3. Windowsパソコンとネットワーク接続する事により、Windowsのブラウザソフト(インターネットエクスプローラーやネットスケープナビゲーター)から、各サーバーサービスの設定が出来ます。
4. 通常LINUXでのサーバーサービスの設定は、設定ファイルを書き換え、サービスのリスタートをする事により設定する為、面倒で難解でした。管理者は設定や管理に多くの時間を費やしたと思います。PLASMAはブラウザ上から簡単に設定できますので、作業が楽になり、またオンラインマニュアルをその場で確認できますので、多少ネットワークの知識があれば直ぐ設定が出来ると思います。
5. メールサーバーは、Sendmailよりセキュリティレベルが高く簡単に設定出来る、QMAILを採用しました。

3. 梱包内容の確認

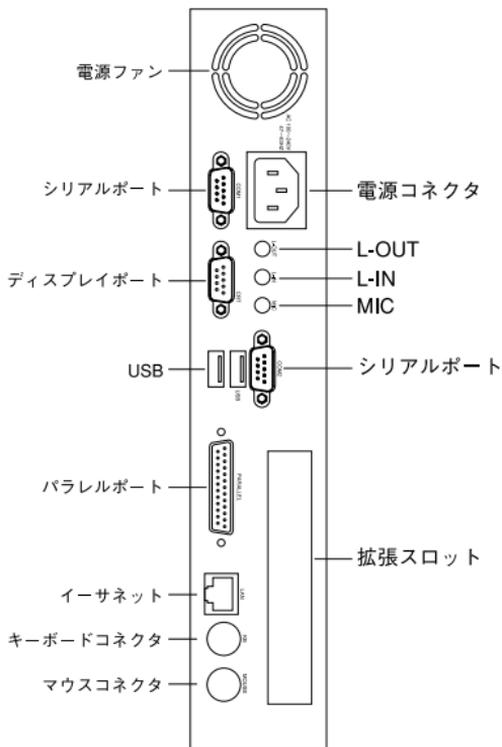
PLASMA本体
 電源ケーブル
 縦置きスタンド
 このユーザズ・マニュアル
 RJ45ツイストペアケーブル
 保証書

4. 各部の名称

●前面図



●背面図



ハードウェアの設定

1. 設置場所

PLASMAを設置する際には、以下の点にご注意下さい。

湿気の多い場所に置かないで下さい。

チリやほこりの多い場所には置かないで下さい。

直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しないで下さい。

極端に低音になる場所には設置しないで下さい。

急激な温度変化を与えないで下さい。

内部に熱がこもる原因になりますので、周囲になるべく空間を空けて下さい。特に背面の電源ファンを塞がないようにご注意ください。

本体を縦置きにする場合、必ず製品添付のスタンドを使用し安定した場所に設置して下さい。

2. 設置方法

本製品をネットワーク接続する

1. 本体背面のLANポートに、RJ45ツイストペアケーブルを接続して下さい。(クロスケーブルのピアツーピア接続はお勧めできません)
2. 同一ネットワーク上に以下のIPアドレスを固定で設定したサーバや、ルーター等のネットワーク機器がある環境には接続しないで下さい。また、DHCPサーバのある環境にも接続しないで下さい。上手く通信が出来ません。ただし、後で設定を変更すれば可能です。

- ・ IPアドレス 192.168.1.1
- ・ サブネットマスク 255.255.255.0

- 3.同一のネットワークにWindows95/98がインストールされたパソコンを接続し、TCP/IPが組込まれている事を確認して下さい。

本製品にキーボード、モニタ、を接続

- 1.本製品にキーボードを接続する場合は、本体背面のキーボードコネクタにPS/2タイプのキーボードを接続して下さい。
- 2.本製品にモニタを接続する場合は、本体背面のディスプレイコネクタに接続して下さい。(モニタはVGA対応のものをお使い下さい)

電源ON / OFF

<電源ON>

本製品に付属の電源ケーブルを本体に挿し込み、電源プラグをコンセントに挿し込み、キーボード、モニタを接続した状態で、電源スイッチを押して、正常に動作する事をご確認下さい。

電源を入れて、RedHat Linuxが起動するまで、約2分かかります。ただし、数回に一度、ハードディスクの検査が入りますので、もう少し時間がかかる事があります。検査に要する時間はハードディスクの容量により異なります。容量が多ければ多いほど時間がかかります。

<電源OFF>

電源を切る時は必ず、Linuxをシャットダウンしてから電源スイッチを押して下さい。本体にモニタを接続していない場合は、シャットダウンの操作を行ってから数分間待ち、シャットダウンが確実に終了してから電源を切ってください。

PLASMAの起動と終了

1. PLASMAへのログイン

本体にキーボード、モニタを接続した場合は、以下のような画面が表示されます。ここで、以下のユーザ名とパスワードを入力してログインして下さい。(下線部分が実際に入力する部分です)

----- 表示画面 -----

Red Hat Linux release 6.0 (Hedwig)

Kernel 2.2.5-15 on an i486

Server login :

以下のユーザ名とパスワードを入力して下さい。

----- 入力例 -----

server login: root

Password : password

注意

ここで、入力したパスワードは実際には何も表示されません。ログインに成功すると以下のような文字が表示されます。(日付は異なります)

----- 表示例 -----

server login: root

Password :

Last login : Thu Dec 16 15:32:37 on tty1

[root@server /root]#

ここで、シャットダウンする場合は、以下のようにコマンドを入力します。

```
-----  
[ root@server /root ]# shutdown -h now  
-----
```

本体にモニターを接続している場合は、Power Down .が表示された事を確認してから電源を切ってください。

注意

再起動するには、reboot と入力するか、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを押して下さい。

PLASMAツールの起動

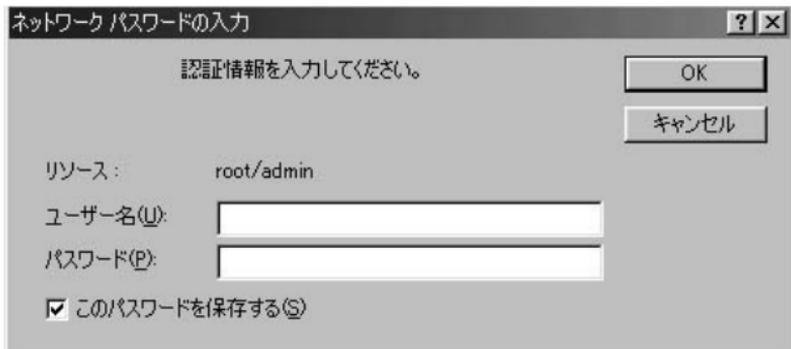
- 1.PLASMAツールを起動するには、同一ネットワークにWindows95 /98/NT等がインストールされたパソコンが必要です。また、Webブラウザソフトがインストールされてなければなりません。（詳細は、ハードウェア設定の設置方法をご確認下さい。）
- 2.Windowsがインストールされているパソコンからブラウザソフトを起動して下さい。
- 3.URL(IE4.0の場合はアドレスの指定欄、netscapeの場合は場所の指定欄)に以下のアドレスを入力して下さい。
 - ・ http://192.168.1.1:98/

4. Planex Smart Serverのスタート画面が表示されます。

2. PLASMAのシャットダウン

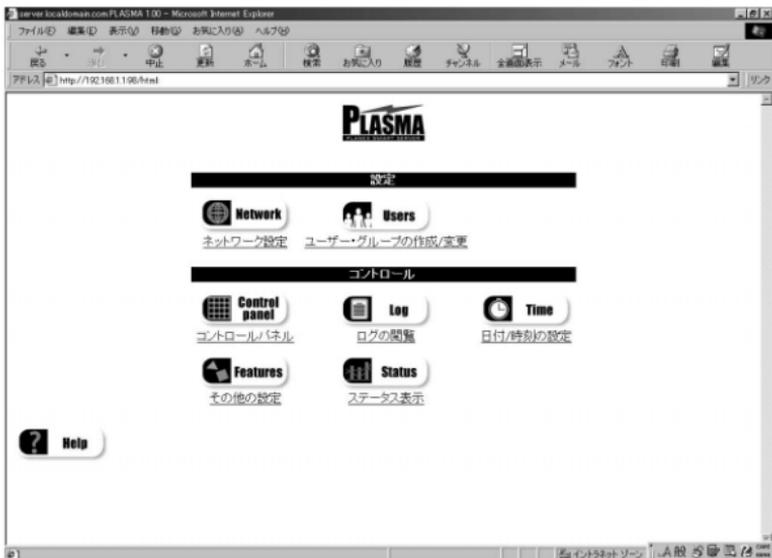
1. PLASMAのシャットダウンの方法は2通りあります。一つが、キーボード、モニタ、を接続してShutdown コマンドを入力して停止する方法でもう一つが、Webブラウザからネットワーク経由で停止する方法です。シャットダウンコマンドでPLASMAを停止するには、PLASMAへのログインをご確認下さい。
2. Webブラウザを使用してネットワーク経由でシャットダウンするには、PLASMAツールの起動を確認し、PLASMAツールの設定画面を表示させて下さい。表示された画面から、ADVANCED をクリックして下さい。

3.以下の画面が表示されます。



4.ユーザー名とパスワードの問い合わせがありますので、ユーザー名に管理者のID、パスワードに管理者のパスワードを入力して、OKボタンをクリックして下さい。

5.メインメニューが表示されますので、コントロールパネルをクリックします。



6.表示された画面から、シャットダウン/再起動 をクリックして下さい。



7.以下の画面が表示されます。



- ラジオボタンで、再起動とシャットダウン を選択できます。ここでは終了なので、シャットダウンをチェックして下さい。もし、再起動する場合は再起動をクリックして下さい。
- シャットダウン実行までの時間(分)は、特に指定する必要が無ければデフォルトの 0 のまま、Accept ボタンをクリックして下さい。確認メッセージは、PLASMAにネットワーク接続されたパソコンに終了のメッセージを送ります。

シャットダウンには約 1 分かかります。1 分間待ってから、前面パネルの電源スイッチを押して電源を切して下さい。

- Netscape Navigatorをご使用の場合、以下のメッセージが表示されます。
「ドキュメントにデータが含まれていません。あとでやり直すかサーバーの管理者にお尋ね下さい」
また、Internet Explorer 4.0 の場合は、以下のメッセージが表示されます。
「インターネットサイト <http://192.168.1.1:98/html/ok==Control=panel/ok==Shutdown==Reboot/> を開けません。無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました」

これは、PLASMA が終了しネットワークから切断された為に表示されるものなので、特に障害ではありません。

工場出荷状態の各設定ファイルの保存

設定をはじめる前に、各サーバサービスの設定ファイルを保存しておく事をお勧めします。以下にその手順を説明します。

- 1.メインメニューからコントロールパネル アイコンをクリックします。



- 2.表示された画面から、設定ファイルの保存と復元 をクリックします。



- 3.表示された画面から、backup configuration file をクリックします。



4.次に表示されたメニューは現在、保存されている情報とバックアップ開始の画面です。初めて、ご使用の場合や一度も、保存されていない場合は、以下の図のようになっています。



- 5.ここで Start backup をクリックすると設定ファイルの保存が始まります。終了すると、complete と表示されます。また、左上に backup list と表示されますので、ここをクリックすると、以下のように、保存した日付が表示されます。



- 6.ここで、再度、設定する場合は、Start backup をクリックして下さい。バックアップ取得した日付が更に下に追加されて表示されます。

⚠ 注意

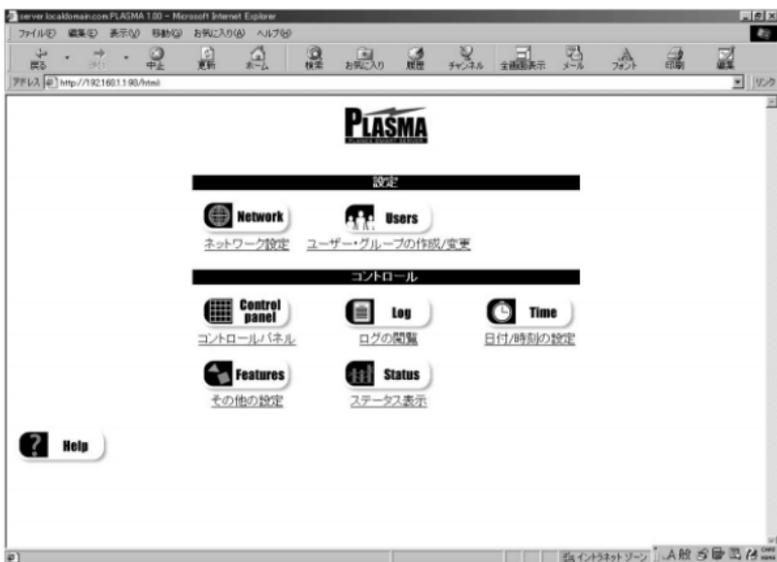
ファイルの保存には、約1分かかります。万が一、1分以内に終了しても再度、バックアップを開始しないで下さい。これは、保存したデータを分単位で管理している為です。また、保存したデータは、必ず、外部メディアにコピーして保管する事をお勧めします。

データの保存場所は、./tmp/configbk です。その下に保存した日付のディレクトリができますので、その下の、data001.gz、data002.gz、data003.gz、data004、data005、data006、data007、data008、data009 がその該当ファイルです。

Webブラウザで設定している場合は、SAMBDAでフォルダを共有してリムーバブルメディア等にコピーして下さい。設定ファイルの復元については、PLASMAツールのHELPをご参照下さい。

基本設定

1. 本体に接続されたネットワークアダプタのIPアドレス、ホスト名、DHCPサーバからIPを取得するか等のホストの設定を行ないます。
2. 初めにPLASMAツールを起動します。
3. 最初の画面で、AdvancedボタンをクリックしたあとユーザーIDとパスワードを入力し、メインメニューを表示させます。
4. 表示された画面から、ネットワーク設定をクリックして下さい。



5.表示されたメニューの基本設定をクリックして下さい。



6.以下の画面が表示されます。



7.各設定項目について説明します

< ホストネーム >

PLASMAのホストネームを入力します。

< 有効 >

アダプタを有効にするかどうかの設定です。ネットワークに接続する場合は、必ずチェックして下さい。

< 設定モード >

手動設定

IPアドレスを直接、指定する場合は、ここをチェックします。

DHCP

同一ネットワーク上のDHCPサーバからIPアドレスを取得する場合は、ここをチェックします。

BOOTP

同一ネットワーク上のBootp サーバーからIPを取得する場合は、ここをチェックします。

ホスト + ドメイン名

ここはFQDN(完全ドメイン名)の設定です。PLASMAのデフォルトでは、server.localdomain.comになっています。正式なドメイン名を取得した場合や、任意にドメイン名を変更したい場合はここで変更します。

エイリアス(opt)

ここはPLASMAのデフォルト値がserverになっています。これは、上記、ホスト名 + ドメイン名の別名になります。

IPアドレス

ここでは、ネットワークアダプタに設定するIPアドレスになります。PLASMAのデフォルトは、192.168.1.1 になっています。

注意

- 1.初期画面から、ネットワーク設定、基本IP設定でIPアドレス変更後、ネームサーバーの指定でネームサーバーのIPアドレスも同様に変更します。
 - 2.初期画面から、ネットワークの設定、DNSサーバーの設定でIPリバースマッピングの、PLASMAが設定されてるIPアドレスをクリックし、ネットワークアドレスを変更します。
(注) IPアドレスの変更だけでネットワークアドレスが同一の場合は変更しなくても結構です
 - 3.初期画面からネットワークの設定、その他の管理者用ホストの設定で「ネットワークまたはホスト」と「ネットマスク (opt)」が0.0.0.0になっている事を確認します。
 - 4.PLASMAを再起動する。
 - 5.クライアントPCからIPアドレス、サブネットマスクが同一グループである事を確認し参照するDNSサーバのIPアドレスを変更します。
- ※以上の手順でIPアドレスを変更しないと、クライアントPCから、PLASMAツールを起動出来なくなります。

ネットマスク (opt)

ここでは、上記IPアドレスのサブネットマスクを指定します。サブネットマスクの詳細はヘルプの「用語の説明」をご確認下さい。

PLASMAのデフォルトでは、255.255.255.0 となっています。

変更したい時はここで設定して下さい。

最下部のAccept ボタンをクリックすると設定が更新され、内容が反映されます。設定を取り消したい場合は「戻る」をクリックして下さい。最後に、PLASMAを再起動して下さい。

注意

PLASMAに搭載されてるアダプタは、1 枚です。アダプタ 2は、パッケージ版の「PlanexSmartManager」を購入された方が自分のパソコンに2枚目のネットワークカードを装着された場合のために用意されています。

ユーザー登録

PLASMAにログインするユーザーを登録します。

1. メインメニューからユーザー・グループの作成/変更をクリックします。



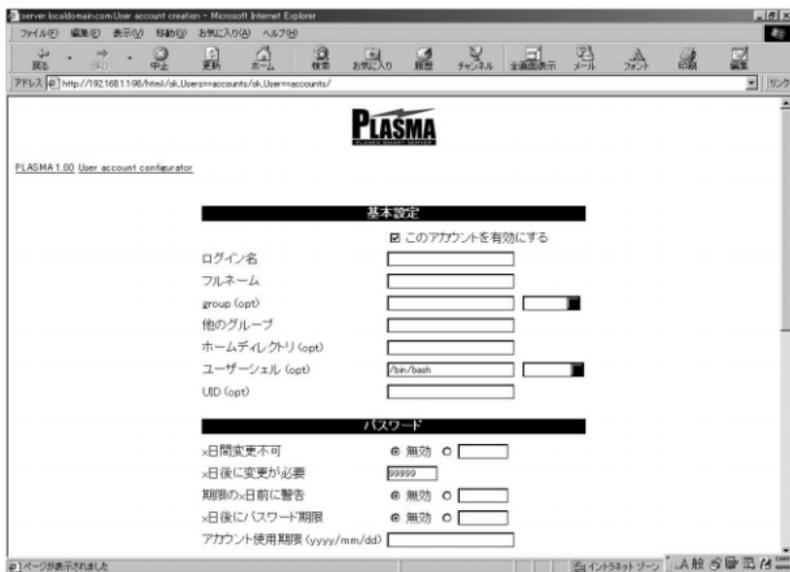
2.表示された画面からユーザーの作成/変更をクリックします。



3.以下の画面が表示されます。ここには現在登録されているユーザーが表示されます。新しく登録した場合もここに表示されます。ここで、ユーザーをクリックするとユーザーの設定情報を確認できます。



4.下にあるADDボタンをクリックすると新規ユーザー登録画面が表示されます。



5.以下に各設定項目について説明します。

<このアカウントを有効にする>

ここは、必ずチェックして下さい。

<ログイン名>

登録するユーザーのログインIDを入力します。

<フルネーム>

ユーザーの氏名を入力します。

<group(opt)>

ここは登録ユーザーが所属するグループ名を指定します。通常自動的に入力されます。

<他のグループ>

他に所属するグループがあったら入力します。省略可。

<ホームディレクトリ>

ユーザーのホームディレクトリを指定します。これは、ログイン時に初めに位置するディレクトリです。通常自動的に入りますが、/home 以下のユーザー名にします

<ユーザーシェル>

ユーザーが使用するシェルの設定です。(ここは、デフォルトにしておいて下さい)

<UID>

UserIDは自動で入力されます。変更する場合は、他のユーザーIDと異なるように設定します。変更しない事をお勧めします。

<最終更新日>

パスワードが更新された最後の日付が表示されます。

<x日間変更不可>

指定した日数は、ユーザーによるパスワードの変更を禁止します。無効にするとユーザーによるパスワードの設定変更が出来なくなります。

<x日後に変更が必要>

指定した日数の日になるとパスワードの変更を要求されます。

<期限のx日前に警告>

指定した日になると、何日後にパスワードを変更するように警告されます。無効にすると警告されません。

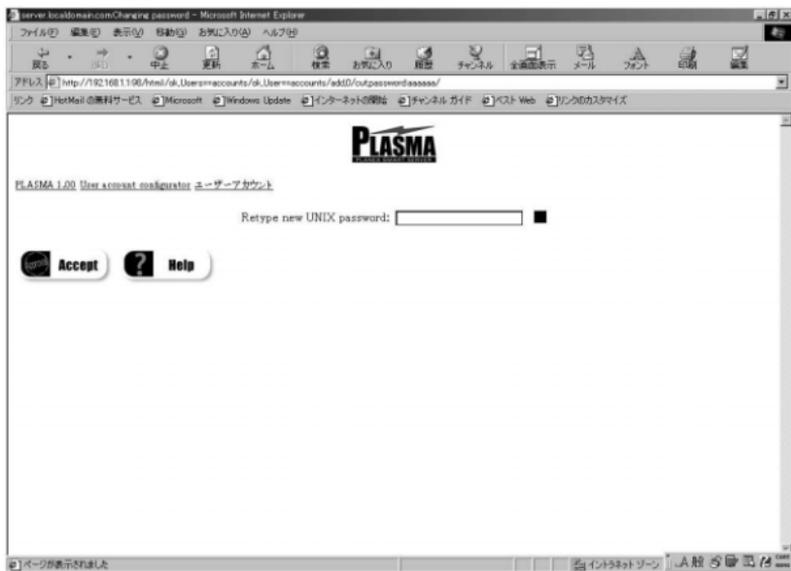
<x 日後にパスワード期限>

指定した日にパスワードが期限切れになります。無効にするとパスワードは無期限になります。

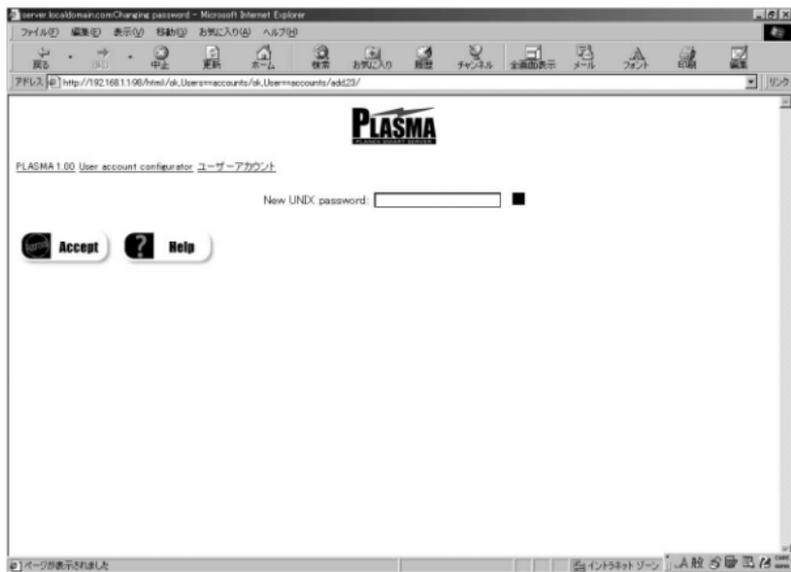
<アカウント使用期限(yyyy/mm/dd)>

ここで設定したアカウントの使用期限を設定します。yyyy/mm/dd形式で入力してください。

6. 以上の内容で設定するにはAcceptボタンをクリックします。設定内容を取り消したい場合は、上のPLASMA1.00をクリックして下さい。また、既に設定されているユーザー情報を削除するには、「Delete」をクリックして下さい。登録されているユーザーのパスワードを変更する場合は、「Password」をクリックして下さい。以下の7と同じ画面が表示されます。
7. 次の画面でYes、Noの問い合わせがありますので、Yesをクリックして登録します。その後、以下の画面が表示されます。



- 8.ここで、設定するユーザーのパスワードを入力します。デフォルトでは、英文字 + 数字の6バイト以上です(デフォルトを変更するには、ユーザー・グループの作成/変更からユーザー基本設定で変更できます。)Acceptをクリックすると以下の画面が表示されます。



- 9.ここで、確認の為に上記で入力したパスワードを再度、入力して下さい。

Acceptをクリックすると前画面に戻り設定が反映されます。複数ユーザーを登録する場合は、再度、繰り返して下さい。

管理者パスワードの変更

管理者 (root) のパスワードを変更するには PLASMA ツールの初めの画面から、ADVANCED をクリックします。以下の画面が表示されます。



- 1.ユーザー・グループの作成 / 変更をクリックして下さい。以下の画面が表示されます。



- 2.管理者パスワードの変更をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 管理者 (root) のパスワードを入力します。(パスワードは、英文字 + 数字 6 文字以上にして下さい。)ACCEPT をクリックすると以下の画面が表示されます。



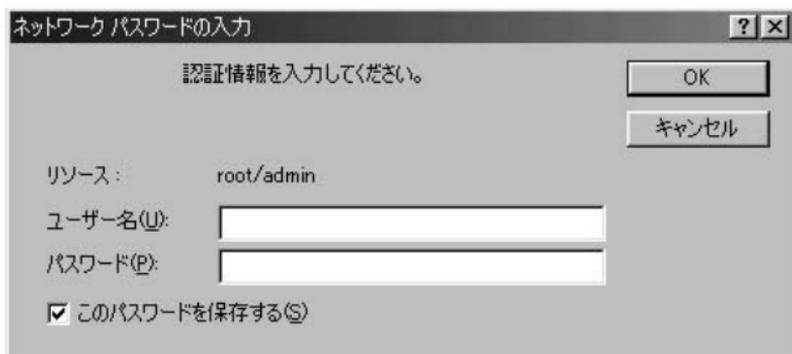
4. 確認の為、再度上記で入力したパスワードを入力してAcceptをクリックします。
- 設定内容が反映され前画面に戻ります。PLASMAを起動して下さい。

簡易設定

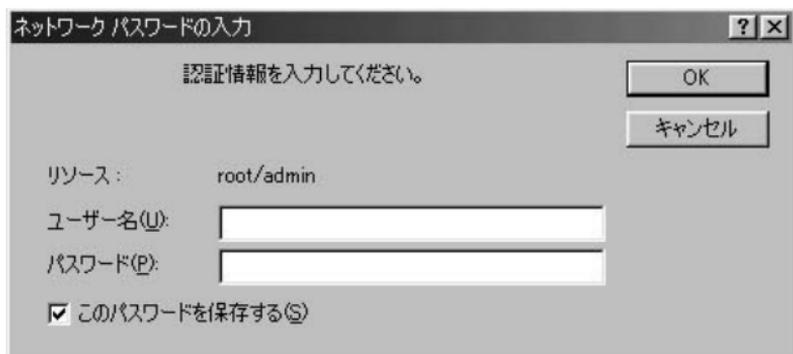
1. クイックセットアップ

PLASMAを簡単に設定する為に、クイックセットアップをご用意致しました。ここでは、IPアドレスとホスト名の変更、モデム設定、ルーターのIP設定、IPマスカレード、DNSサーバの指定(名前の解決の為に、同一ネットワーク上に存在するDNSサーバを指定)、DHCPサーバ(同一ネットワーク上のDHCPサーバからIPアドレスを取得する方法)、ユーザ登録が出来るようになっています。また、用語の説明も用意してあります。以下にそれらについて説明します。

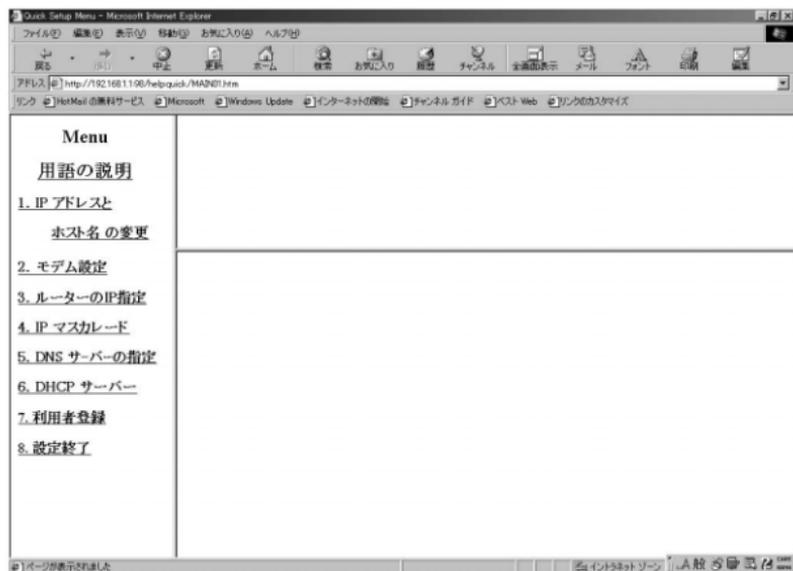
1.PLASMAツールを起動し、Quickをクリックします。



2.以下のパスワードの画面が表示されます。



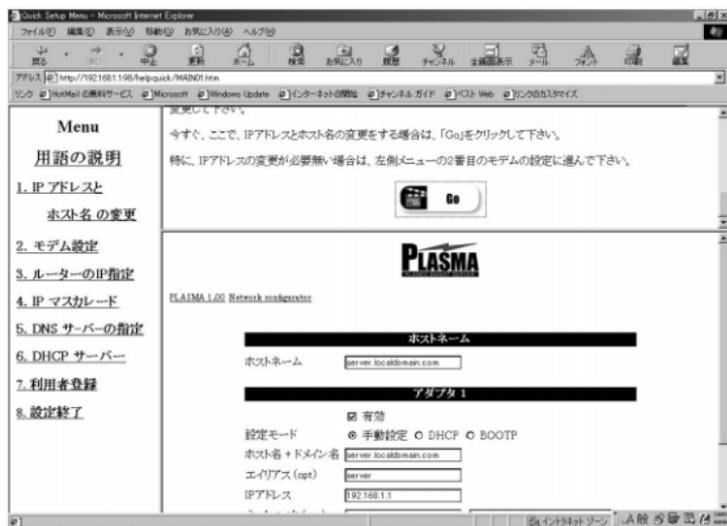
3.PLASMAの初期状態では、ユーザー名が、root、パスワードが、passwordになっています。入力したら、OKをクリックします。以下の画面が表示されます。(表示されない場合があります)



5. 右上のフレームにここでの設定について説明が表示されます。このフレームの右端をスクロールすると、以下の画面のように「GO」ボタンが表示されます。



6. 説明を読んで「GO」をクリックすると、右下のフレームに設定画面が表示されます。



7.各設定の詳細については、画面をスクロールさせると、HELPボタンが表示されますので、ここを、クリックしてご確認下さい。

▲ 注意

- 1.初期画面から、ネットワーク設定、基本IP設定でIPアドレス変更後、ネームサーバーの指定でネームサーバーのIPアドレスも同様に変更します。
 - 2.初期画面から、ネットワークの設定、DNSサーバーの設定でIPリバースマッピングの、PLASMAが設定されてるIPアドレスをクリックし、ネットワークアドレスを変更します。
(注) IPアドレスの変更だけでネットワークアドレスが同一の場合は変更しなくても結構です
 - 3.初期画面からネットワークの設定、その他の管理者用ホストの設定で「ネットワークまたはホスト」と「ネットワークマスク(opt)」が0.0.0.0になっている事を確認します。
 - 4.PLASMAを再起動する。
 - 5.クライアントPCからIPアドレス、サブネットマスクが同一グループである事を確認し参照するDNSサーバのIPアドレスを変更します。
- ※以上の手順でIPアドレスを変更しないと、クライアントPCから、PLASMAツールを起動出来なくなります。

設定が終了したら、設定画面の中のACCEPTをクリックします。次に、今行なった手順で残りの設定をします。(右側のフレームの2.モデム設定に進んで下さい)

すべての、設定が終了したら設定終了をクリックして下さい。最初の画面に戻ります。

2. 専用線接続 (OCN/ODN)

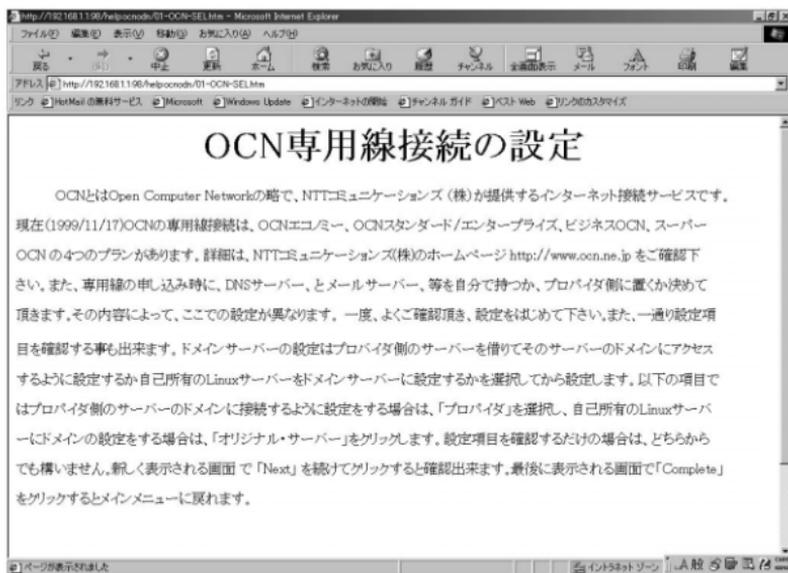
デジタル専用回線を使用して、専用線接続する場合、別途ルータが必要になります。ルータからHUBを経由して、PLASMAのETHERNETコネクタに接続してインターネットに接続します。OCN、ODNでの専用線対応のルーター等をご用意頂ければ、後は申し込みをして設定するだけです。

ただし、UPS(無停電電源装置)や、バックアップ用のデバイスは、別途、必要になります。

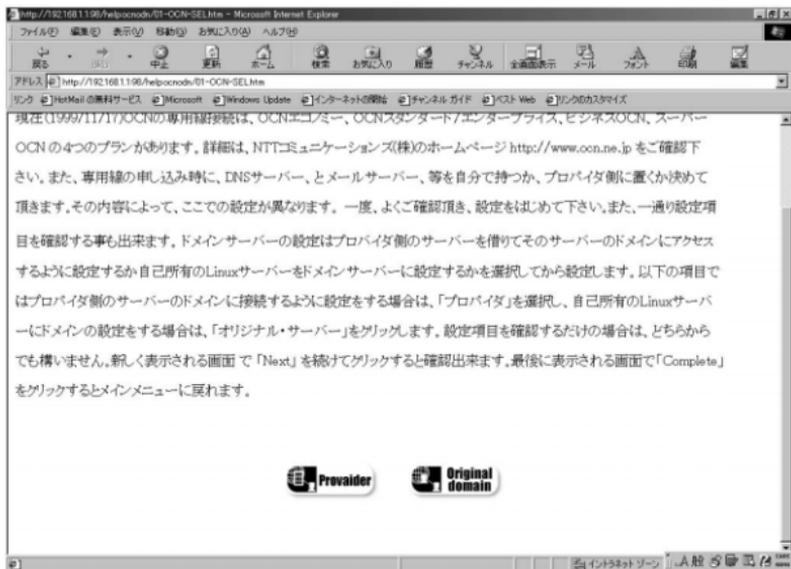
PLASMAを使って、専用線接続(OCN、ODN等)する場合の設定について説明します。

OCN/ODNでの接続

PLASMAツールを起動し、OCN、または、ODNをクリックします。OCNもODNもSERVER側の設定は基本的には同じ設定ですので、ここでは、OCNについて説明します。初めの画面から、OCNをクリックします。



1. OCNについての説明が表示されます。ここでは、DNSサーバをプロバイダ側に置くか、PLASMAをDNSサーバ、に設定するかを選択しなければなりません(OCN契約時によく確認して下さい)。画面をスクロールすると以下のようなボタンが表示されます。



2. プロバイダ側にDNSサーバを置く場合は、PROVIDER を、PLASMAをDNSサーバにする場合は、ORIGINAL DOMAIN をクリックします。初めに、ORIGINAL DOMAINを例に説明します。



3. 管理者のユーザー名とパスワードの要求があります。PLASMAの初期状態では、ユーザー名がroot、パスワードがpasswordになっています。入力後、OKをクリックすると以下の画面が表示されます。



- 4.ここでは、PLASMAのドメインの設定をします。上に説明が表示され、下に実際に設定する画面が表示されます。ここで設定する場合は、下の画面でADDをクリックして設定後、上の画面でNEXTをクリックします。設定しないで、画面を進める時も、NEXTをクリックします。もし、戻る場合は、BACKをクリックして下さい。NEXTをクリックすると以下の画面が表示されます。



- 5.ここでは、IPアドレスとホスト名の設定をします。上に説明が表示され、下に実際に設定する画面が表示されます。ここで設定する場合は、下の画面で設定後、ACCEPTをクリックし、上の画面でNEXTをクリックします。設定しないで、画面を進める時も、NEXTをクリックします。もし、戻る場合は、BACKをクリックして下さい。NEXTをクリックすると以下の画面が表示されます。

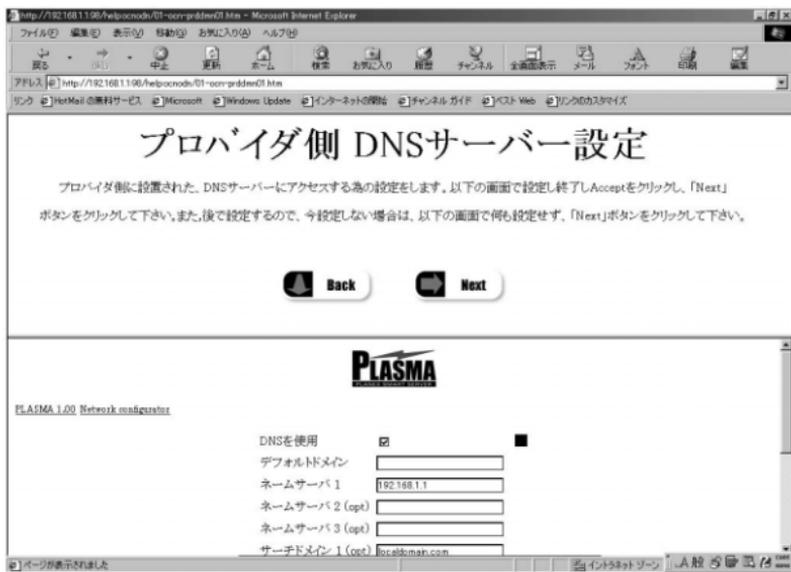
設定項目の詳細は、画面上のHELPをご確認下さい。



- 6.ここでは、ルータのIP登録の設定をします。上に説明が表示され、下に実際に設定する画面が表示されます。ここで設定する場合は、下の画面で設定後、ACCEPTをクリックし、上の画面でNEXTをクリックします。設定しないで、画面を進める時も、NEXTをクリックします。もし、戻る場合は、BACKをクリックして下さい。NEXTをクリックすると以下の画面が表示されます。



7.ここでは、メールサーバの設定をします。PLASMAをメールサーバに設定する場合はここで設定します。もし、プロバイダ側にメールサーバを置く場合は、この設定は必要ありません。画面の上に説明が表示され、下に実際に設定する画面が表示されます。ここで設定する場合は、下の画面で設定後、ACCEPTをクリックし、上の画面でCompleteをクリックします。設定しないで、終了する場合も、Complete をクリックします。もし、戻る場合は、BACKをクリックして下さい。NEXTをクリックすると以下の画面が表示されます。また、1の画面で、Providerをクリックした場合、初めに表示される画面は以下のようになります。



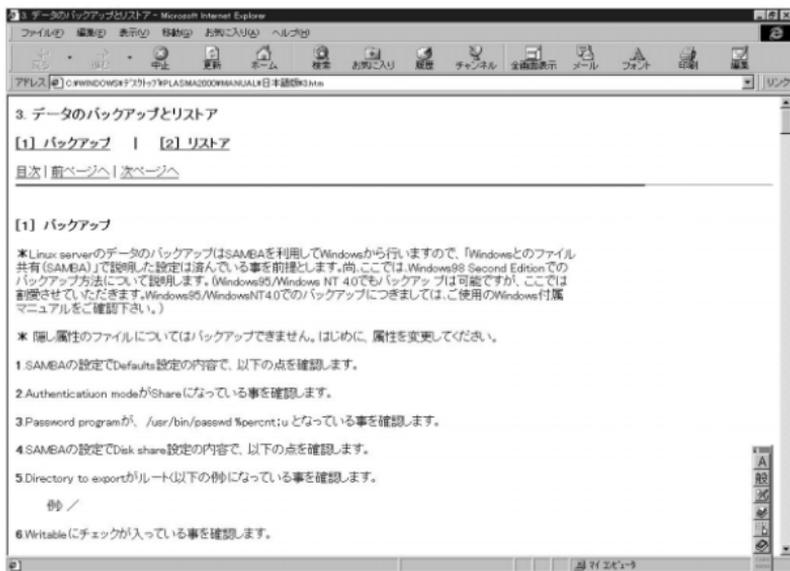
8.ここで設定する内容はプロバイダ側のdnsサーバについてです。設定方法は上記で説明した内容と同じになります。

最後に、PLASMAを再起動して下さい。

メンテナンス

1. バックアップ

PLASMAには標準で、Windowsとのファイル共有にSAMBAが組込まれています。SAMBAを利用して、Windowsのバックアップツールを使用する事により、PLASMAに作成した、HDDのデータのバックアップができます。バックアップの方法は、PLASMAツールの設定画面から、HELPをクリックすると表示される画面で確認できます。HELPの目次の、3.データのバックアップとリストアを選択すると以下の画面が表示されます。よく確認してバックアップを開始して下さい。



2. ログの確認

PLASMAツールを起動して、起動時のログと設定変更ログを確認する事ができます。ログを確認する事により、障害時の問題解決に役立てる事ができます。PLASMAツールの初期画面から、ADVANCEDをクリックして、ログ閲覧をクリックすると、以下の画面が表示されます。それぞれのログは、日付毎に確認する事ができます。以下は、起動ログのサンプルです。

```
PLASMA 1.00 System Log

<4>Linux version 2.2.5-15 (root@server.localdomain.com) (gcc version egcs-2.91.66 19990314/Linux (egcs-1.1.2 release)) #2 Sat Sep 18
18:28:57 JST 1999
<4>Console: colour VGA+ 80x25
<4>Calibrating delay loop... 44.44 BogoMIPS
<4>Memory: 63224k/65536k available (880k kernel code, 412k reserved, 964k data, 56k init)
<4>Checking if this processor honours the WP bit even in supervisor mode... Ok.
<5>VFS: Diskquotas version 4quot 5.4.0 initialized
<4>CPU: Cyrix MediaGX 3x Core/Bus Clock
<6>Checking 386/387 coupling... OK. FPU using exception 16 error reporting.
<6>Checking 'hlt' instruction... OK.
<4>POSIX conformance testing by UNIPIX
<4>PCI: PCI BIOS revision 2.10 entry at 0xh990
<4>PCI: Using configuration type 1
<4>PCI: Probing PCI hardware
<6>Linux NET4.0 for Linux 2.2
<6>Based upon Swansea University Computer Society NET3.039
<6>NET4: Unix domain sockets 1.0 for Linux NET4.0.
<6>NET4: Linux TCP/IP 1.0 for NET4.0
```

3. その他のサービス

SAMBA

Windowsとのファイル共有は、PLASMAの初期状態の場合、ワークグループ名をMygroup、IPアドレスを192.168.1.2 ~ 192.168.1.254の間、サブネットマスクを255.255.255.0 に設定すると、デスクトップ上のネットワークコンピュータにServerというコンピュータが表示されます。ここに自分のフォルダを表示させ、データを保存するには、ユーザー登録して、そのユーザーIDとパスワードでWindowsにログオンすると可能になります。詳細は、PLASMAツールのHELPをご確認下さい。

NETATALK

PLASMAとマッキントッシュパソコンでファイル共有する為に、NETATALKが組込まれています。詳細は、PLASMAツールのHELPをご確認下さい。

APACHE

PLASMAにはWebサーバとして運用する為に、APACHEが組込まれています。詳細は、PLASMAツールのHELPをご確認下さい。

ファイアウォール

PLASMAは標準でファイアウォールの設定が可能です。詳細は、PLASMAツールのHELPをご確認下さい。

4. リカバリ機能

PLASMAには、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブが用意されていない為、ソフトウェアでの障害で、OSが起動しなくなった場合、リカバリシステムを起動する事により容易に、システムを工場出荷状態に戻す事が出来ます。また、各設定ファイルの内容をSAVECONF(PLASMAツールのオンラインマニュアル2-5を参照)を使って保存してあれば、5世代まで遡って設定を復元する事が出来ます。以下にその手順をご説明致します。

- 1.初めに、PLASMAの本体にディスプレイ、キーボード、電源ケーブル、を接続して電源スイッチを押します。
- 2.PLASMAの電源が入ると、LILOが起動して以下のような表示が画面に現れます。
そこで、下線の部分の文字列、rsystemと入力してエンターキーを押します。

```
LILO boot : rsystem
```

- 3.リカバリ用のLINUXが起動して以下のメッセージが表示されます。

```
*****  
*                               *  
*           Menu                 *  
* No0... Load Factory default   *  
* No1... Backup Date= No Backup Data· *  
* No2... Backup Date= No Backup Data· *  
* No3... Backup Date= No Backup Data· *  
* No4... Backup Date= No Backup Data· *  
* No5... Backup Date= No Backup Data· *  
*                               *  
* Select an Item( 0-5 )and Press Enter *  
*****
```

ここで、0から5のどれかを選択して、エンターキーを押します。ただし、1から5は、saveconf(PLASMAツールのオンラインマニュアル、2-5を参照)を使用してデータが保存されていないと選択してもエラーになり、再起動がかかります。saveconfでデータが保存されていれば、保存した日付が表示されますので希望の日付の番号を指定する事によりその日付の設定ファイルのデータを復元する事が出来ます。また、0は工場出荷状態に戻す事になります。そして0はsaveconfでデータを保存していなくても、いつでも選択出来ます。

4.正常にリカバリシステムが開始すると以下のメッセージが表示されます。

***** Recovery System Start! *****

※このメッセージが表示されてから、画面は、約2分止まったままになりますが、トラブルではありません。

※保存されていないデータの番号を指定した場合は、以下のようなメッセージが表示され再起動します。

***** No recovery data : rebooting system *****

※入力を間違えた場合は、以下のようなメッセージが表示され再起動します。

***** Input Error: Rebooting System... *****

5.データの復元が完了すると以下のメッセージが表示されます。何かキーを押すとシステムが再起動します。(復元が完了するまでの作業時間は、約20分位です)

```
*****
***** System Recovery Completed!! *****
*****
***** Press any key to reboot system *****
*****
```

6.システムが正常に起動する事を確認して下さい。

(注1)リカバリシステムは、SAVECONFでバックアップした内容の最新の5世代が復元の対象になります。ですから、Web上からSAVECONFで任意に設定ファイルのバックアップを削除しても、リカバリシステムで使用するファイルは削除されません。ただし、SAVE CONFを使用して5回以上設定ファイルを保存した場合は、5世代以上前の設定ファイルは自動的に削除されます。

(注2)リカバリシステムでは、お客様が追加/保存/編集したファイルやアプリケーションは復元出来ません。ただし、ハードディスクを初期化しませんのでリカバリシステムで完全に復元出来れば使用出来る可能性はあります。

基本的にリカバリするデータは、工場出荷状態のファイルやディレクトリ群と、SAVECONFで保存した設定ファイル類です。

- (注3) リカバリシステムを実行して再起動しても、上手く起動出来ない場合は、再度、OSを起動し直して下さい。数回、再起動しても正常に起動出来無い場合は、復元は困難です。また、このような場合に備えて、常にデータはバックアップして頂く事をお勧めします。
- (注4) リカバリシステムは、ハードウェアの障害には対応していません。ハードウェアの障害でシステムが起動出来なくなった場合は、今まで通り弊社宛に送って頂き修理、または交換する以外に方法はありません。
- (注5) リカバリシステムは完全ではありません。ソフトウェアの障害内容によっては復旧出来ない場合がございます。その場合は、弊社宛に返送して下さい。工場出荷状態に戻させて頂きます。
- (注6) 従来のシステムにリカバリシステムを追加した為、ハードディスクの領域を1GB別に確保しました。

その他

1. Cybozu Office3 試用版

PLASMAには、標準でサイボウズ社の「Cybozu Office3 試用版」が組込まれています。

ブラウザソフトを起動して以下のアドレスを入力して下さい。

<http://192.168.1.1/cgi-bin/cb3/office.cgi?>

または、

<http://server.localdomain.com/cgi-bin/cb3/office.cgi?>

尚、詳細は、サイボウズ株式会社 様のホームページをご確認下さい。

<http://cybozu.co.jp/cb3/index.html>

2. 注意事項

PLASMAツールを使用中、以下の記号が表示される事があります。



この"! "マークは、エラーではありません。
設定を継続する事は可能です。



一度「戻る」をクリックして、再度、設定を行って下さい。

電源を切る時は必ず、必ずシャットダウンをしてから、電源スイッチを切って下さい。

起動時に数回に一度は、HDDのスキャンが実行されます。この時、電源を切ると故障の原因になります。ご注意ください。

PLASMAツールは、パッケージソフトとして単体販売を予定しております。このため、オンラインマニュアルはパッケージ版と併用しております。

3. 保証規定

< 日本国内のみ保証 >

PLASMAは日本国内で購入した場合のみ保証の対象になります。

< 保証期間 >

ご購入後、一年間とさせていただきます。(基本的に、お客様のお手元に届いてから一年間になります)

< ソフトウェアについて >

PLASMAには、RedHat Linux6.0 と、PLASMAツール「Planex Smart server」がインストールされています。これらは以下の状態で保証致します。

- 1.インストールされている、PLASMAツールはお客様がお買い上げ頂いたPLASMAでのみ保証致します。
- 2.商用ソフトを譲渡、賃与、中古取引、再使用許諾、レンタル、リースする事は出来ません。

4. 修理/交換

保証期間内の修理

初期不良はお買い上げ頂いてから一ヶ月とさせていただきます。

弊社ではオンサイトサポートはございません。基本的にセンドバック方式とさせていただきます。

本体輸送時のトラブルによるデータの消失、その他の損害に対する保証は一切行ないません。

海外からの修理品送付はお受けできかねます。日本国内からお送り下さい。

ハードディスクの故障によるデータの復旧は受けられません。必ず、お客様自身でデータのバックアップを行なって下さい。

化粧箱は捨てないで下さい。修理品の返送時に必要になります。

5. 仕様

ハードウェア

<メモリ>

64Mb

<ビデオコネクタ>

VGA D-sub15ピン × 1

<キーボードコネクタ>

PS/2ミニDIN6ピン × 1

<マウスコネクタ>

PS/2ミニDIN6ピン × 1

<ネットワーク>

100BASE-TX/10BASE-T RJ-45 × 1

<シリアル>

RS-232c D-sub 9ピン × 1

<パラレル>

D-sub 25ピン × 1

ソフトウェア

<Linux デストリビューション>

RedHat Linux 6.0

<WWWサーバ>

apache 3.6

<DNSサーバ>

BIND 8.2.2

<メールサーバ>

QMAIL 1.03

<FTPサーバ>

WU-FTPD 2.6.0

<PPP>

PPP 2.3.7

<DHCPサーバ>

dhcpcd 2.0B1PL6

<Windowsファイル共有>

SAMBA 2.0.5A

<Macファイル共有>

Netatalk 1.4b2+asun 2.1.3

<IPマスカレード>

<ファイアウォール>

<日本語シェル>

KON kon2-0.3.7-4

KON-FONT kon2-font-0.3.7-4